

高等教育で身につけるべき力-1

「主体的に変化に対応し得る**幅広い視野**や総合的な**判断力**と豊かな**創造性**を持つ人材の養成」・・・（1997大学審：高等教育の一層の改善について）

「主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力＝**課題探求能力**」・・・（1998大学審：21世紀の大学像と今後の改革方策について）

「地球規模の視野、歴史的な視点、**多元的な視点**（グローバル化対応）、正確な**理解力**と的確な**判断力**（科学・技術の進展対応）」・・・
（2002中教審：新しい時代における教養教育の在り方）

「専攻分野についての**専門性**、**幅広い教養**、高い**公共性**と**倫理性**を身につけ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、**社会を改善していく資質**（知識基盤社会対応）」・・・2005中教審：我が国の高等教育の将来像→本学の総合的教養教育のベースとなった答申）

高等教育で身につけるべき力-2

「**学士力**＝知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力」・・・（2008中教審：学士課程教育の構築に向けて）

「学士力の要素を持つ人材十層の厚いグローバル人材育成→我が国の歴史や文化に関する知識や認識、**多元的な文化の受容性**を有し、**批判的・合理的思考力**、社会的責任を担い得る**倫理的・社会的能力**、総合的な学習に基づく**創造力・構想力**、想定外の困難に際して的確な判断ができる**教養、知識、経験**を含む**汎用的能力**」・・・（2012中教審：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～主体的に考える力を育成する大学へ～）

「知識を基盤とした自立・協働・創造の社会の実現に向けてその中で生き抜く力→「**生きる力**」（生涯にわたって学び続け、主体的に考え、どのような状況にも対応できる**課題探求能力**を有する多様な人材を育成する」・・・（2013中教審：第2期教育振興基本計画）

「課題発見・探求能力、実行力などを含む『**社会人基礎力**』や『**基礎的・汎用的能力**』などの社会人として必要な能力を有する人材を育成する」・・・（2013教育再生実行会議：これからの大学教育等の在り方について）

高等教育で身につけるべき力-3

「**生きる力**を構成する**豊かな人間性、健康・体力、確かな学力**」・・・
（2014中教審：新しい時代にふさわしい高大接続の実現にむけた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について）

「主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ；創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感；**感性**、思いやり、コミュニケーション能力、**多様性を受容する力**」・・・（2015教育再生実行会議：これからの時代に求められる資質・能力とそれを培う教育、教師のありかたについて）

「AI・IoT・ビッグデータ等の産業構造の改革を促す**情報技術**を基盤とした人材の育成」・・・（2018中教審：第3期教育振興基本計画）

「読み書き・対話する力；科学的・数理的素養；**文理双方の学修とAIに関する素養**の修得」・・・（2018文科省TF：Society5.0に向けた人材育成）

「**文系・理系の垣根なく**全ての学生がAI・数理・データサイエンスの基本的な素養を身につけ、**新たな価値を創造する能力**を育成する」・・・（2019教育再生実行会議：技術の進展に応じた教育の改革）→AI戦略2019

社会から求められている能力

- 人間力（内閣府2003年）
- 就職基礎能力（厚生労働省2004年）
- 社会人基礎力（経済産業省2006年）
- 学士力（中教審2008年）
- 基礎的・汎用的能力（中教審2011年）
- AI・数理データサイエンスの素養（文科省2018）



「人間力」

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

※ 次のような要素を総合的にバランスよく高めることが、人間力を高めることと定義

構成要素	内容
知的能力的要素	「基礎学力(主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力)」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など
社会・対人関係力的要素	「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力」など
自己制御的要素	上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など

●人間力（内閣府「人間力戦略研究会報告書」、2003年4月より）

人間力は「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」をいい、次の要素によって構成されています。

構成要素	項目	内容
知的能力の要素	基礎学力	総合的・本質的な見方、専門の基礎的知識、数量的リテラシー（表・グラフ等）、情報リテラシー（情報コミュニケーション技術等）について理解し、活用できる。
	専門的な知識・ノウハウ	専門的知識と技能について、その背景や応用を含め、理解し、活用できる。
	論理的思考力	情報を収集し、複眼的・論理的に分析し、それを的確に表現できる。
	創造力	異なる知識を組み合わせたり、常識や固定観念にとらわれない新たな発想をしたり、さまざまな角度から柔軟に考えたりすることで、新しい価値や新たな行動を生み出すことができる。
社会・対人関係力の要素	コミュニケーションスキル	同じ世代の人たちだけでなく、異なる文化・世代・立場の人たちに対しても、傾聴し、気持ちや意思を推察・尊重・共感し、自分の気持ちや意思を適切に伝え、共に理解し合い、考えの対立を調整できる。
	リーダーシップ	目標やビジョンと問題意識をチームで共有し、メンバーの役割を明確にし、メンバーの能力の向上を支援し、メンバーの気持ちに配慮しながら支え、目標を妨げるメンバーの行動に対してはその理由を述べて注意し、チームを目標達成に導くことができる。
	公共心	社会の一員であることを自覚し、社会の問題を自分の問題として考え、社会全体の利益となるよう積極的に行動できる。
	規範意識	自分が判断・行動するときに従うべき基準について深く理解し、自主的・自立的に規律ある行動をすることができる。
	他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力（相互啓発力）	他者の考えや意見（良かった点や改善点など）に素直に真摯な態度で耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を謙虚に誠実な態度で発表したり、お互いのすぐれた点を見習ったりすることで、お互いに視野を広げ、啓発し合うことができる。
自己制御の要素	意欲	生涯にわたって学び続けていきたいという学修意欲、自らを向上させて自分に合った職業について自立した社会生活を送りたいという就業意欲、ボランティア活動・地域活動等に参加して社会に貢献したいという社会参加意欲、高い目標を持ち成し遂げたいという目的意欲を持っている。
	忍耐力	目標を持ち、その実現のために、自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念を持って粘り強く取り組むことができる。
	自分らしい生き方や成功を追求する力（自己受容・自己実現力）	自分をありのままに直視して受け入れたり、成功モデルや理想像、十年後の自分（必然的未来像）を思い描いて踏み出したり、自分の可能性を探し、広げ、生かしていくことで、自己実現に向けて努力できる。

「就職基礎能力」

企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力

事務・営業の職種について、就職基礎能力のそれぞれの能力の具体的な内容についてレベル分け(=基礎(高校卒業レベル)、応用(大学卒業レベル))を行い、「就職基礎能力修得の目安」として整理

能力	要素	内容
コミュニケーション能力	意思疎通	自己主張と傾聴のバランスを取りながら効果的に意思疎通ができる
	協調性	双方の主張の調整を図り調和を図ることができる
	自己表現力	状況にあった訴求力のあるプレゼンができる
職業人意識	責任感	社会の一員として役割の自覚を持っている
	向上心・探求心	働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる
	職業意識・勤労観	職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持ち、意欲や態度等で示すことができる
基礎学力	読み書き	職務遂行に必要な文書知識を持っている
	計算・数学的思考	職務遂行に必要な数学的な思考方法や知識を持っている
	社会人常識	社会人として必要な常識を持っている
ビジネスマナー	基本的なマナー	集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる
資格取得	情報技術関係	社会人として必要なコンピュータの基本機能の操作や情報処理・活用ができる
	経理・財務関係	社会人として必要な経理・会計、財務に関する知識を持ち活用ができる
	語学力関係	社会人として必要な英語に関する知識を持ち活用ができる



職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を
「**社会人基礎力**(= 3つの能力・12の能力要素)」として定義。

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

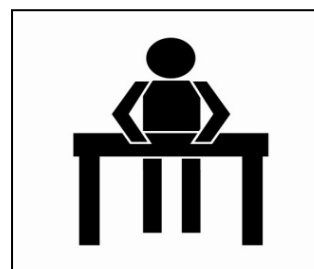
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

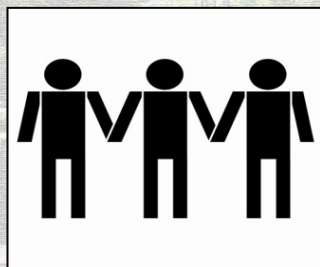
計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

○ 学士力（卒業時に身につけている資質・能力）

学士力に関する主な内容

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解
（多文化の異文化に関する知識の理解，人類の文化・社会と自然に関する知識の理解）

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション・スキル，数量的スキル，情報リテラシー，論理的思考力，問題解決力）

3. 態度・志向性

自己管理力，チームワーク・リーダーシップ，倫理観，市民としての社会的責任，生涯学習力

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

自らが立てた新たな課題を解決する能力

キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）」より（2011）

Ⅱ 学校教育をめぐる課題とキャリア教育・職業教育の基本的方向性

3. キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点

（3）社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な以降に必要な力を明らかにする

③ 基礎的・汎用的能力の内容

- 基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理した。
- これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。
- これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成していただきたいと考えている。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。

◇ 人間関係形成・社会形成能力	◇ 自己理解・自己管理能力	◇ 課題対応能力	◇ キャリアプランニング能力
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
具体的な要素（例）	具体的な要素（例）	具体的な要素（例）	具体的な要素（例）
他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど	自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動など	情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

4領域・8能力

大学教育の目標

高知大学のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「関心・意欲・態度」の4つの領域（10の能力）と＋1の能力で定義される。

学生は10の能力を学士課程全体で身につけ、それらの諸能力が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける力（＋1の能力）を獲得する。

10＋1の能力育成
→総合的教養教育

ディプロマ・ポリシー 育成する資質・能力の範疇	具体的な能力		評価方法		
【知識・理解】	対課題	専門分野に関する知識	GPA		
		人類の文化・社会・自然に関する知識			
【思考・判断】		論理的思考力		ルーブリックによる 学生の自己評価	
		課題探求力			
【技能・表現】		語学・情報に関するリテラシー			ルーブリックによる 学生の自己評価
	対人	表現力	ルーブリックによる 学生の自己評価		
コミュニケーション力					
【関心・意欲・態度】	協働実践力	ルーブリックによる 学生の自己評価			
	対自己			自律力	
				倫理観	
統合・働きかけ	上記の諸能力を内的に統合し、周囲の文化・社会・自然・人間などに外的に働きかけていく能力		パフォーマンス評価		

文科省 「Society5.0に向けた人材育成」 (2018)

Society 5.0で求められる力、リテラシー

1. 文章や情報を正確に読み解き対話する力
2. 科学的に思考・吟味し活用する力
3. 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

新たな社会を牽引する人材として、

1. 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材
2. 技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材
3. 様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材

→数理・データサイエンス・AI教育の導入

経産省 「未来の教室」ビジョン (2019)

令和の教育改革に向けての3つの柱

1. 学びのSTEAM化

一人ひとり違うワクワクを核に、
「知る」と「創る」が循環する、
文理融合の学びに

2. 学びの自立化・個別最適化

一人ひとり違う認知特性や
学習到達度等をもとに、
学び方を選べる学びに

3. 新しい学習基盤づくり

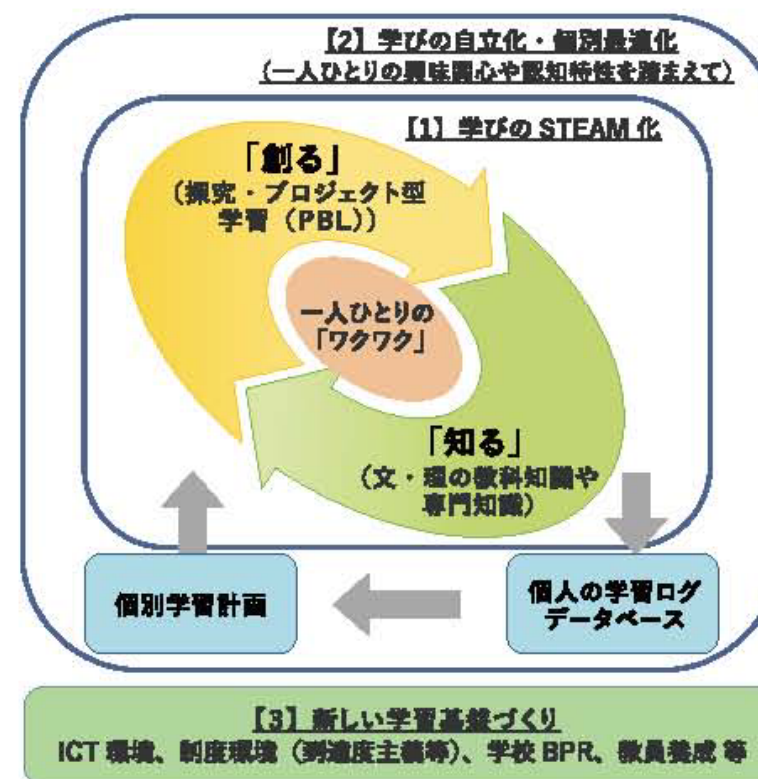
学習者中心、デジタル・ファースト、
社会とシームレスな学校へ

STEAM

Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics

→大学教育のありかたが変化する。

「未来の教室」を目指す姿



教育改革に向けた主な取り組み

デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎などの必要な力を**全ての国民**が育み、あらゆる分野で人材が活躍

主な取組

エキスパート

先鋭的な人材を発掘・伸ばす環境整備

- 若手の自由な研究と海外挑戦の機会を拡充
- 実課題をAIで発見・解決する学習中心の課題解決型AI人材育成

応用基礎

AI応用力の習得

- AI×専門分野のダブルメジャーの促進
- AIで地域課題等の解決ができる人材育成（産学連携）

認定制度・資格の活用

- 大学等の優れた教育プログラムを政府が認定する制度構築
- 国家試験（ITパスポート）の見直し、高校等での活用促進

リテラシー

学習内容の強化

- 大学の標準カリキュラムの開発と展開（MOOC※活用等）
- 高校におけるAIの基礎となる実習授業の充実

小中高校における教育環境の整備

- 多様なICT人材の登用（高校は1校に1人以上、小中校は4校に1人以上）
- 生徒一人一人が端末を持つICT環境整備

育成目標【2025年】

トップクラス育成
100人程度/年

2,000人/年

25万人/年

（高校の一部、高専・大学の50%）

50万人/年

（大学・高専卒業生全員）

100万人/年

（高校卒業生全員）

（小中学生全員）

※Massive Open Online Course：大規模公開オンライン講座

教育再生実行会議 第十二次提言概要

「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」（令和3年6月3日）

ニューノーマルにおける 教育の姿

- 一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指し、学習者主体の教育に転換
 - デジタル化を進め、データ駆動型の教育に転換。学びのデータ（学習面、生活・健康面、教師の指導面）の活用
- 【意義】①子供：学びの機会や質の充実 ②教師：指導方法の充実や働き方改革 ③行政：現状把握に基づく政策立案

1. ニューノーマルにおける初等中等教育の姿と実現のための方策

（1）ニューノーマルにおける新たな学びに向けて～データ駆動型の教育への転換～

①一人一台端末の本格運用に係る環境整備

- 安全・安心に端末を取り扱うための手引の策定・周知
- 個人情報保護制度の見直しを踏まえた学校教育上の取扱いの明示

②データ駆動型の教育への転換による学びの変革の推進

- 学習状況のデータを管理するマネジメントシステムの活用促進
- 同時双方向やオンデマンドによる授業モデルの展開

③学びの継続・保障のための方策

- 学校でも家庭でも継続して学習できるオンライン学習システムの全国展開
- 不測の事態でも、学校と児童生徒の関係を継続し、学びを保障する取組の推進
- 小学校との連続性を意識した幼児教育推進体制の充実・強化

④学びの多様化等

- 高校生が大学の講義を学ぶ「先取り履修」の推進
- 大学への飛び入学への高校卒業資格付与<従来、大学中退の場合、中卒扱い>

（2）新たな学びに対応した指導体制等の整備

①少人数によるきめ細かな指導体制・施設設備の整備

- 小学校35人学級の効果検証等を踏まえ、中学校を含め望ましい指導体制の検討
- 新たな学校施設の在り方（令和の学校施設スタンダード）の明確化

②教師の質の向上、多様な人材の活用等

- 教員免許制度、教員養成大学・教職課程等の総合的な見直し
- 教員免許更新制の改革、特別免許状の見直しなど多様な人材確保策

2. ニューノーマルにおける高等教育の姿、国際戦略と実現のための方策

（1）ニューノーマルにおける高等教育の姿

①遠隔・オンライン教育の推進

- ハイブリッド型教育の推進、MOOCや大学間連携などリソースの共有・有効活用
- 単位数上限算定の考え方の明確化、質保証システムの在り方の見直し

②教学の改善等を通じた質の保証（「出口における質保証」）

- 「教学マネジメント指針」に基づく密度の高い組織的な大学教育の展開

③学びの複線化・多様化

- 高校時代に取得した大学の単位数に応じ、修業年限を柔軟化
- 産学連携による職業教育機能の強化、リカレント教育の充実

④デジタル化への対応

- 学修歴証明書の普及、学修管理システムによる学修データを活用した教育改善
- さらに、⑤学生等への支援の充実、⑥大学等の施設・設備の整備の推進

（2）グローバルな視点での新たな高等教育の国際戦略

①グローバル化に対応した教育環境の実現、学生のグローバル対応力の育成

- 国際連携教育課程(JD)の一層の普及促進
- 高校段階からの海外留学促進、「トビタテ！留学JAPAN」の後継事業の実施

②優秀な外国人留学生の戦略的な獲得※技術流出防止等に十分に配慮

- 国際バカロレア(IB)などの成績を用いた特別入試の実施
- 頭脳循環の拠点となる大学での優秀な留学生の獲得に資する制度の検討

③学事暦・修業年限の多様化・柔軟化と社会との接続の在り方

- 大学等の国際化や学びの多様化に対応した秋季入学・4学期制や早期卒業・修了の推進、秋採用や最終学年6月以降の通年採用の推進・情報発信